

記述回答のまとめ

◎＝30以上 ○＝10以上 △＝1～9

* 複数回答可

補 足

- ・ 質問は全て昨年と同じであるため、自由記述内容の分類も同様とし、比較できるようにした。
- ・ 記載者の意図が伝わるように、できるだけ本文の内容をそのまま掲載した。
- ・ 昨年度と同じ内容のものは数字に丸印、新しい意見は数字のみで分類した。
- ・ 問20(1)に対しては、「変わらない」「わからない」の理由・意見も掲載した。

「2009スポーツ立県あきた」について

問20(1) 宣言の前と後で変わったと思われることがありましたらお書きください。【記述者数250名】

「変わった」

(136名)

◎ スポーツ大会、イベントの開催、スポーツへの参加について

48名

- ① 県民参加型のイベントが増えた気がする。
- ② 高齢者のスポーツへの参加及び小・中学校がイベント等に協力する割合が増えたように思う。
- ③ 老人クラブ会員の参加が目立ってきたと感じる。健康寿命が延びていると思う。アンベイ秋田に大いに協力したい。
- 4 スポ少のレクリエーション大会等、全国規模での取り組みをしていると感じられる。
- 5 スポーツも文化であるとの認識が少しずつ確立しつつある。

◎ プロスポーツについて

34名

- ① プロスポーツに対する施策が良好になっている。
- ② リーグの応援をはじめ、同じ目的をもって取り組む姿勢、意識が高まっている。
- 3 プロスポーツゲームの観戦や選手と子供達との交流が増えたような気がする。
- 4 かなり盛り上がりを見せ、関心が高まってきた。あとは秋田から全国レベルの若者が輩出されることを期待したい。
- 5 少しずつ発展の方向に進んでいると思われる。活動できる指導者をもっと活用されるようにしたいかがか。

○ 報道、PR、広報について

23名

- ① 新聞でのスポーツ情報内容が多くなったように思う。テレビでも「スポーツ立県あきた」の言葉が聞けるようになった。
- ② イベントなどを知ることにより、観戦しよう、行ってみようと思うようになった。
- 3 もっとプロの試合を秋田県民に見せて、自分もプロの選手になりたいという意識、意欲を持たせてほしい。

◎ 県・市町村について

31名

- ① 秋田25市町村対抗伝ふるさとあきたランが始まり、「スポーツ王国秋田」を復活させたいとの知事の熱意が伝わる。
- ② チャレンジデーをやってから、相手の県や各市町村に負けられない。自分自身の運動する機会を見つめるようになった。
- ③ 県内各市町村で子供から高齢者までスポーツに取り組む行事が多くなったと思う。
- ④ 県の取組が拡充してきた。企業やプロスポーツ、メディアとの連携も進んだと思う。

「変わらない」

(99名)

- 1 行政では一生懸命やっているようだが一般の人には関係ないように思う。
- 2 変わったと思えない。具体的に何が変わったかわからない。周知不足だと思う。
- 3 スポーツへの関心の高い方々が応援などをしているようだが、スポーツと関わりがない人には何も届いていない。

「わからない」

(15名)

- 1 直接関わりがなく、宣言前の状態も後の状態もよくわからない。
- 2 わからないし、どのようなことを推進しているのかも伝わらない。
- 3 キャッチフレーズだけでなく、実のある政策をやってほしい。

問20(2) スポーツについて秋田県の施策で不足していると思われること、
もっと取り組んでほしいことがありましたらお書きください。

【記述者数693名】

◎ 施設について	251名
① 屋内スポーツ施設の充実を期待する(室内プール、スケートボード、武道館、卓球専用体育館、ボルダリング設備等)。 ② 屋外スポーツ施設の充実を期待する(フィールドアスレチック、ランニングコース、グラウンドゴルフ場、ウォータースポーツ施設、キャンプ場等)。 ③ 冬期間や雨天時でも屋外スポーツができるドーム型スポーツ施設があればいい。 ④ プロ公式戦や国際大会等を開催できるような、大型スクリーン、観客席、駐車場等を整備した施設と宿泊施設の充実。 5 各自治体のスポーツ施設を競技者から生涯スポーツの愛好者まで対応できるよう整備していく必要があるのでは。 6 県立高校のスポーツ施設の整備が不十分ではないか。 7 競技者に影響のない喫煙場所を設置してほしい。	
◎ 広報、メディア等におけるPRについて	106名
① 宣伝、実行している施策をWEBなどで発信する。しているのであれば、その旨を宣伝する。 ② 県内の各市町村のスポーツへの取組や各スポーツの指導者一覧などを、簡単に知ることができる仕組みがほしい。 ③ 利用できる施設一覧のHP設備、県立中央公園のアスレチックのPR等、気軽に利用できるような施設の宣伝をしてほしい。 ④ 周知不足ではないか。全国チャレンジデーは全企業を巻き込まないと参加率は上がらない。共通理解が図られていない。 ⑤ 中・高生やプロの大会をテレビ放送したり、結果を広報やHPに掲載したりして、幅広く情報を県民に提供してほしい。 6 若い世代が参加できる企画、興味がわくようなPRを期待している。 7 生涯スポーツや病気の未然防止の観点からの情報提供(社会保障費用の抑制につなげていく)が必要ではないか。 8 「スポーツ立県あきた」が何を指すか、その具体策を示し県民一体となって進めるよう再検討してほしいか。 9 基本法によってスポーツ推進委員が委嘱されているが活動内容がわからない。様々な施策の推進を広く伝えてほしい。 10 知名度が低いスポーツの広報、スケルトン笹原選手などオリンピック選手を通して普及できればいい。	
◎ 支援・機会の拡充について	98名
① チャレンジデーの時は「よし、やるぞ」とやる気が出る。市でもそういう気持ちになれるようなイベントをやって欲しい。住民目線での活動の積み重ねが「スポーツ立県あきた」の成果になると思う。 ② ロコモ防止のリハビリや体操を普及してほしい。移動手段のない方を送迎するなどの支援があったらいい。 ③ 障害者へのスポーツ推進活動が必要ではないか。 ④ 観戦も含めてのスポーツ、なかなか参加できない人でも参加しやすくなる施策があればより盛り上がっていくと思う。 5 スポーツクラブを普及し、中高年のロコモ予防対策を広めて、平均寿命よりも健康寿命を上げる取り組みが必要。 6 例えば「県民の日」を休日にし、スポーツに触れる機会を作ってほしいか。 7 市町村やクラブ、競技団体に経費支援をしてほしい。ねりんピックの補助金が少なく負担が多い。 8 県や国の施策が、競技者中心のものになっていないのではないかと心配している。 9 アスリートの採用には経済的なバックアップが必要。スポーツを仕事にできる労働環境を整え、遠征費等の支援や練習場所の確保など、2020年までサポートが必要。 10 閉校になった学校の開放はありがたいが、希望する時間帯(17時以降)に使用できないのが現状。 11 スポーツをやる余裕のない人が多いのでは。時間的にも金銭的にもスポーツができる環境を整えるべきだと思う。	
◎ 指導者について	56名
① 小・中・高校に専門性のある指導者が不足している。または、地域差があるように思える。 ② アマチュアスポーツのコーチ、専門的指導者の育成。レベルアップを図り、スポーツの科学的な分野を充実させる。 ③ 全国レベルで活躍した県出身アスリートの就職支援をし、指導者として各種スポーツの充実に当たらせるとよいと思う。	
◎ 選手強化・高校野球について	49名
① 小・中学生を元プロが指導するなど、底辺拡大の取組が必要と思う。 ② 高校進学時に優秀選手の他県への流出を防ぎ、県内高校のレベルアップを図りたい。 ③ 高校競技の強化指定校の具体的な設定と金銭的な強化への援助施策が必要。 ④ 秋田に残って競技を続ける環境としての社会人やプロの充実が、高校野球のレベル向上につながる。 ⑤ アスリートの育成、指導者の育成、スポーツ施設の充実、競技団体の育成強化に努めてほしい。	

6 少子化で絶対的に数が不足している。個人競技にも力を入れたらどうか。

◎ イベント・大会・合宿等の誘致について

30名

- ① チャレンジデーのように町全体がスポーツに対して活気づくイベントを増やしてほしい。
- ② 全国規模までいなくても東北規模の大会を誘致してほしい。特にスポ少関係の行事を。
- ③ プロスポーツイベントをもっと開催してほしい。直にプロの動きが見たい。
- 4 市内でいいので高校から社会人チームが参加できる大会を開催してほしい。
- 5 少子化で運動会を行えない地域が合同でイベントを企画できるような活動を推進し、地域の活性化を図ってもらいたい。
- 6 ウォーキングなどの体験型のスポーツイベントを開催する。スポーツのイベントと県特産品販売をコラボする。
- 7 ワールドゲームズ、Xゲーム、モータースポーツなどの大会も見たい。プロ野球2軍戦、K-1などの格闘技誘致も一案。

○ 県内プロスポーツについて

28名

- ① 駐車場完備の大規模なアリーナ、総合的なスポーツエリア、ブラウリッツのホームグラウンドの条件に合う設備が必要。
- ② プロチームが呼べるようなスタジアムやアリーナを、県北や県南の高速道路のIC付近にできないか。
- 3 観戦の機会を増やし子供達の意識を高める。県出身の元プロを指導者として育成し小、中、高生への指導に生かす。

○ スポ少・部活動について

24名

- 1 小学生2・3年生のスポ少の参加、リトルリーグの新設。
- 2 運動が苦手な人でも参加しやすい初心者スポーツスクールがあればよい。
- 3 種目が限定されている。よりたくさんのスポーツができる環境を整えてほしい。

◎ 要望・その他

52名

- 1 勝つための施策はとらないでほしい。卒業してからも生涯スポーツを楽しめる環境がほしい。
- 2 トップアスリートの育成も大事だが文化的な事にもっと力を入れてもらいたい。
- 3 ブラインドランナーの伴走など障害者スポーツのボランティアをしたい。
- 4 生活に余裕がないのに、スポーツどころじゃない。
- 5 過去に様々な意見や要望を声にしてきたが変更、改善がほとんど無く諦めた。一切関心が無い。このアンケートもそのうちの一つ。もっと県民が目を通せるように、結果報告もしっかりわかりやすい場所に掲示すべきと伝えてきたのにいつまでも変わらず。もうどうでもいいと思っている。

問21 あなたの住んでいる地域や秋田県のスポーツについて、普段感じていることがありましたら
お書きください。 【記述者数693名】

ア スポーツ少年団活動について

(374名)

◎ 指導者について

100名

- ① 指導者の不足。同一競技であれば各年代毎の指導方針や県との連携を図ってほしい。
- ② 有力な団員を引き抜くなどの勝利至上主義的な指導がみられる。スポーツは楽しむものと教え、多くを経験させたい。
- ③ 目標はスポーツを通じた心身の健康の保持増進、研修会で指導者と保護者の教育水準を向上させるべきではないか。
- 4 指導者はボランティアで金銭的負担も大きいので若い後継者が育たない。例えば県主体となって指導者バンクを設立し、財政支援をしながら指導者を育成し必要な団体に送り込むような取組はどうか。
- 5 熱心に指導してくださる地域の監督やコーチに、何かしらの謝礼を支払える仕組みはないものか。
- 6 教員資格の有無に関わらず、スポーツ指導に特化した人員を学校・県で採用すべき。
- 7 現役を引退した県出身のプロスポーツ選手やオリンピックを、指導者として活用する仕組みができないものか。

◎ 過熱化について

38名

- ① 練習、大会出場で休みが無い。少子化により選手にならざるを得ない低学年の子供までもが遅くまで活動している。
- ② 土日でも練習試合で時間的、精神的にゆとりがなく学習との両立ができない。保護者に頼る活動が多い。
- 3 勝敗は大事だが勝利至上主義傾向はないか。心も身体も成長途中のスポ少活動は、運動が苦手な子供も入団して楽しい、よかったと思えるような体験をたくさんしてほしい。やがて中・高での本格的な部活動へと高まっていったほしい。

◎ 少子化について

59名

- ① 少子化で、地域や学校単位の団体が成り立たなくなる。各スポーツ分野での地域横断的なクラブの創設が望まれる。

② 子供が少ない割にスポ少は多い。互いに子供を取り合い競技力が低下している。計画的育成が必要なのは。	
◎ 保護者について	53名
① 活動・大会等への送迎を全て保護者に任せられる。共働きの家庭では負担が大きく、続けられない子供もいる。	
2 スポ少活動に対して親が関与しすぎること。指導方針や選手起用等にクレームを付ける親が増えたように感じる。	
○ スポ少化について	10名
① 認定員の資格を取って指導しているが仕事の関係で時間がとれない。負担が大きく自己責任を伴うためスポ少は大変というイメージが広まっている。	
2 スポ少活動は活発でいいが、子供会活動との両立ができるようになるともっと郷土愛が育つと思う。	
○ 地域・行政との連携について	10名
① スポ少から高校まで一貫した指導体制を確立し、県、東北、全国で通用するレベルの選手が育つ環境を期待する。	
② チャレンジデーの参加率に成果を感じる。日頃から地域と一体になった運動機会を増やせばさらに向上すると思う。	
3 高齢者のスポーツや健康づくりのプログラムや人材を増やし、福祉分野とも連携してほしい。	
○ 活発な活動について	18名
① 子供達の明るい声が聞こえ練習も活気があってよい。監督、保護者の皆さんで頑張っている。挨拶もとても気持ちがよい。	
2 スポーツを通じて学ぶことがたくさんあり、一人でも多くの子供に活動の大切さを知って欲しいと思っている。	
△ 競技力向上について	5名
① 小学校のスポ少で行っている種目が中学校の部活にない。子供が続けたくても難しい。統一できないものか。	
2 プロ選手の観戦や交流会などが子供達により刺激になっている。この先も継続し、他の種目にも広められないか。	
○ 施設利用について	16名
① 施設の無料開放日を設けてほしい。	
② より多くの人々が利用できるように、施設の拡大や設置、室内競技場が増えることを望む。	
③ 人工芝やオールウェザー、ナイター設備、ドーム型スタジアムがあれば、野外種目の練習が充実すると思う。	
△ 情報について	9名
1 県内の各種大会の情報や結果をもっとネットやテレビなどで流してほしい。	

イ 中学校の部活動について (165名)

◎ 指導者・指導について	66名
① 学校の先生と外部コーチとの連携、指導力の強化を望む。	
② 一般的に人間的・体力的に最も伸びる時期、全国的にも優れた指導者、選手に接する機会を作っていただきたい。	
◎ 少子化について	32名
① 少子化で団体競技のチーム編成ができなくなっているのに、個人種目への移行が難しいことが問題ではないか。	
② 少子化、核家族の時代、できれば部活動を通じた仲間づくり、スポーツを通じた協調性を身に付けさせたい。	
③ 部活数減少でスポ少から継続できない。総合型地域スポーツクラブと各自治体の連携で活動の場を保障できないか。	
○ 強化支援について	27名
① 部活休止日が多い。体罰等が起きない程度で本格的にスポーツに取り組ませた方がいいと感じた。	
② 地区総体で47年ぶりの優勝、その後一人一人が自信を持ち大きく成長した姿が見られる。勝つ経験は貴重である。	
③ 強い選手の県外への流出(高校進学)を防ぎたい。	
④ マイナーな種目のせい、メジャーな種目に比べ自己負担が大きい。上位大会に進出しても助成が少ない。	
○ 保護者について	19名
① 練習場所や大会会場への送迎など、保護者が必ず関わらなければいけないのが負担である。	
② 親が子供のスポーツに無関心で協力する意思が少ない。	
③ 部活動に対して親が関与しすぎ。指導方針や選手起用等にクレームを付ける親が増えたように感じる(高校にも同一記載あり)。	
4 保護者が県大会、東北大会等の寄付を集めることは少し違うように思う(高校にも同一記載あり)。	

△ 施設について 7名

- 1 施設の無料開放日を設けてほしい。
- 2 冬場に利用できる施設が不足。
- 3 公共の施設が一般の住民に開放されていない。中・高には体育館があるのに、なぜ土・日は使用しないのか。

△ 情報について 3名

- 1 県内スポーツの情報番組があるといい。全国大会出場チームを紹介すると、見ている側の目標にもなるのではないかな。

ウ 高校の部活動について (121名)

◎ 強化支援・施設について 55名

- ① 優秀な生徒さんが県外の強豪校へ転出している事にとても危機感を持っている。
- ② 高校の部活動補助における中心校の位置付けは適正に行われているのか。
- ③ 各種目の優秀なコーチを専任として、国体の成績をもっと上げてほしい。
- ④ 運動部施設の整備が不十分、改善が必要と思う。
- ⑤ 甲子園で勝てるチームが出てほしい。学区、県全体としても大きく盛り上がるので、高校球児の皆さんには期待している。
- ⑥ 強化指定校を一校にしぼり、一流のアスリートを定期的に招いての指導や講習を受け、徹底的に指導、強化して極める。
- ⑦ 部活をがんばっている高校生達に夢を与え、将来のオリンピック選手やプロ選手を育成したい。

◎ 指導者・指導について 48名

- ① 県外遠征が多く担当者の負担が大きい。学校のバスや運転手の確保など、送迎を保護者に頼る現状をなんとかしたい。
- ② 各部とも学校の先生だけでは不足のところもあると思う。指導者による勉強会や選抜練習会等を企画してほしい。
- ③ 指導者の偏った配置、審判のアンフェアな判定はないか。
- ④ 秋田県の高校野球は県・公立がほとんどだが、指導者を教師だけでなくできる方をもっと受け入れてほしい。
- 5 指導者を個人の競技力、実績などだけで採用するのはよろしくない。体罰を目の当たりにしたことがある。
- 6 部活動指導で、道徳性や基本的生活習慣を身につけさせ、将来的にまじめにやれる人間の育成が必要だと考えるが。

△ 少子化について 8名

- ① 地元の高校が定員割れしており部活動が今後維持できるか心配。

△ 保護者について 8名

- ① あまりお金がかかりすぎ、親の負担が大きすぎるのではないかな。

△ その他 8名

- 1 社会人になってもスポーツを継続してほしい。その為の受け皿となる実業団、プロなどの環境整備が必要。

エ 大学生のスポーツについて (12名)

△ 活動の強化・支援について 9名

- ① スポーツをする意義や目的を明確にするべき。
- ② より地元を強化し、優秀な人材を残す受け皿づくりが必要。

△ 情報について 3名

- 1 大会等の情報が少ない。テレビ放送など見てみたい。

オ 社会人のスポーツについて (114名)

◎ スポーツの機会拡充について 50名

- ① 社会人になってからのスポーツ参加はサークル活動等に限定される。より気軽な無料体験などの機会を増やせないか。
- ② 運動が苦手の人や女性でも気軽に取り組めるようなスポーツなどを、企画・宣伝してスポーツをする機会を与えてほしい。
- ③ 20～30代の若者や子育て世代が気軽に参加できるスポーツの団体が少ない。
- ④ 一般市民レベルの大会がなくてさびしく思う。何か目標を見つけて大会などに出てみたい。
- ⑤ 社会人のスポーツクラブ一覧を広報等に掲載してほしい。職場でやれる運動を指導してくれる方を派遣してほしい。

- 6 地元にボルダリングの施設が整備されれば、是非やってみたい。
- 7 社会人になってからもスポーツをするという文化が根付いていない。
- 8 スポーツを通じた男女の出会いの場を企画してほしい。
- 9 体力づくりのためやりたいと思うが、時間も場所も無く何をしたらいいかも分からない。取り組むための体力もない(仕事終わりにくたくたでスポーツをしようとは思えない)。一緒にスポーツをする知人も家族もいないという感じ。近くのジムに行こうと思ったが、そもそも近くにない。あってもお金がすごくかかりそうで気軽に行けなさそう。

◎ 地域・企業・行政との連携について 47名

- ① 競技者が現役を続けるために受け入れる企業が少なく、また、積極的な採用を実現したい。
- 2 農繁期のチャレンジデー参加は厳しいと思う。市町村の事情があると思うので、全市町村参加はおかしいような気がする。
- 3 運動公園や河川敷、山林間にウッドチップを敷いたジョギングコースを整備したら、気軽に運動する人が多くなると思う。
- 4 休耕地、廃鉱山をサイクリング・ジョギング・ウォーキングコースなどに活用できないか。

◎ 強化について 49名

- ① 秋田出身のアスリートを地元と呼び戻し、競技力向上と人口減少の対策として定住してもらうようにできないものか。

カ 高齢者のスポーツについて (129名)

◎ スポーツの機会拡充について 57名

- ① 高齢者はほとんどの方が何らかのスポーツをしている方が多く、健康に暮らしていると感じている。
- ② 高齢になると足腰が弱くなる。少しずつ運動をして健康寿命を保つ。老後を楽しく元気に過ごせたら最高だと思っている。
- 3 スポーツをする意義や目的を明確にし、気軽に長く続けられるスポーツを指導してほしい。

◎ 地域・行政との連携について 104名

- ① 老人クラブで運動を奨励している。チャレンジデー等イベントを契機にこまめに誘い合うことが効果的だと実感している。
- ② 高齢者の体育施設利用費を割引できないか。交通手段のない高齢者を送迎してくれる支援があれば助かると思う。
- ③ ニュースポーツを小学校の体育や総合の時間などに取り入れ認知度を増やし、若者と老人の交流につながればと思う。
- ④ 男性の運動する場所、機会がほしい。平均寿命やがん患者率など、県としての予防推進を図るための指導が必要と思う。
- 5 「高齢者スポーツの日」を設置して各市町村の実態に応じた企画で進めていってはどうか。
- 6 500才野球に参加している。この秋田発祥の大会をもっと全国にPRしたらよいと思う。
- 7 車イスの高齢者でも安全に楽しめる場を作してほしい。又、意欲が高まるような宣伝や取り組みがあればよい。
- 8 高齢者のスポーツ団体を組織し活動している。経費負担(会場費、講師代等)の問題から、人員確保できず衰退の状況にある。公の経費補助を求めたい。高齢者の健康の保持増進を図る取組が健康長寿向上の一助になると思う。
- 9 ますます高齢化が進んでいく。高齢者自身がスポーツを楽しんだりボランティア活動をしたりして、生きがいをもってスポーツに携わることができる場を提供してもらいたい。

キ 障害者のスポーツについて (38名)

○ 活動の支援について 14名

- ① 障害者への指導者を増やし、負担のかからない動き方や体操の仕方を指導してもらえたらと思う。
- ② 健常者と一緒に、また、障害者同士でやれる機会があればよい。
- ③ どんなスポーツがあるか分からない。案内などの情報もあればよい。家から出てこない人も多いのではないか。

○ 地域・行政との連携について 19名

- ① もう少し理解と支援が必要と思われる。
- ② 支援学校では行われているが、地域では聞いたことがない。県の障害者スポーツ大会でも学生が主である。
- ③ 特に障害者のための施設案内など、宣伝が不足だと感じている。
- 4 体の不自由な人も車イスで運動できる体育施設が必要だと思う。
- 5 種目によっては健常者スポーツ大会と同日、同会場(施設)でできるものもあるのではないか。

△ その他 5名

- 1 何か協力とは思うが、知識もなく無力である。

ク プロスポーツについて

(130名)

◎ 興行の誘致について

32名

- ① 以前より機会は増えたが、より多くの競技を観戦したい。子供達にこそ早い段階で高いレベルを体験させたい。
- ② 商業・観光事業を特化すべくプロスポーツ支援を強化すべき。人が減るなら人を呼ぶべし。

◎ 今後の期待について

48名

- ① 県民が一つになり応援できるスポーツがあってうれしい。勝つことにより県民の意識も高まるので頑張してほしい。
- ② プロで活躍できる選手を育成して欲しい。プロ野球の球団も作って欲しい。

○ 行政・企業の支援について

11名

- ① ハピネッツは秋田のPRにかなり貢献している。大会時のイベントや有明での秋田ブースをもっと県を挙げて盛り上げたい。
- ② 全てにおいてスポンサーのバックアップの充実が望まれる。
- 3 国体で一番点数をとっているスキー選手が、秋田で競技を続けられる環境の確保が必要ではないか。
- 4 バスケット、サッカー、ラグビーと、それぞれの活躍が目立ち、特別ファンでなくてもうれしく感じる。今度は是非バレーボールチームを作してほしい。オリンピック選手を何名も輩出している秋田は素晴らしいチームができると思う。

○ 施設整備について

17名

- ① どの施設も収容人数が中途半端なので検討してほしい。競技場に予算をかけて、大型ビジョンや駐車場を整備すべき。

○ 広報について

21名

- ① バスケット、サッカー等のプロスポーツが地元のニュースに取り上げられ盛り上がっていると感じている。
- ② 食の祭典など出店してもあまりにぎわっていない。もっと関心を持ってもらうよう工夫すべきである。
- 3 プロというと野球、バスケット、サッカー、ラグビー、相撲などが取り上げられるが、競輪でも秋田の選手は頑張っている。女子選手の今後も期待されている。高校生の部活動からもっと注目してあげてはどうか。